

履修コード/科目名称	079401 / 生徒指導論（進路指導を含む）		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	月曜日 3時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	遠藤 司（エンドウ ツカサ）		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	<p>授業前半では、生徒指導をテーマとし、その意義や原理、学校のあらゆる教育活動との関係、校内、校外関係機関との連携・協働のあり方、組織的体制作り、すべての生徒を対象とした生徒指導のあり方、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方等について学びを深め、教師として十分な生徒指導を行うことのできるための知識・技能や知見を得る。授業後半では、進路指導・キャリア教育をテーマとし、進路指導・キャリア教育の意義や原理、教育課程における位置づけ、ガイダンス、キャリア・カウンセリングを含めた具体的な指導方法、適切な体験活動の計画と実施、校内・校外関係諸機関との連携・協働の在り方、組織的体制作り等、教師として十分な進路指導・キャリア教育を行うことのできるための知識・技能や知見を得る。</p>		
到達目標(ねらい)	<p>生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。また、進路指導は、生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導、援助する過程であり、長期的展望に立って人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を育むことを目的とした教育活動である。生徒指導・進路指導（キャリア教育を含む）を、校内・校外関係諸機関と連携しながら組織的に行い、生徒一人一人に対して充分に行うことのできるために必要な知識・技能や知見を身に付けることが、本授業のテーマであり目標である。</p>		
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：生徒指導の定義、及び、教育課程における生徒指導の位置付けの理解	
	第 2 回	すべての生徒を対象とした生徒指導の意義と方法（1）：各教科指導等、学校教育活動全体の中での生徒指導の意義と目的の理解	
	第 3 回	すべての生徒を対象とした生徒指導の意義と方法（2）：生徒指導の方法、特に集団指導と個別指導、教育相談との関係等について基礎的事項の理解	
	第 4 回	すべての生徒を対象とした生徒指導の意義と方法（3）：学校の指導方針、年間指導計画の中での、組織的な生徒指導体制作りの方法と理解	
	第 5 回	すべての生徒を対象とした生徒指導の意義と方法（4）：基礎的生活習慣の確立や規範意識の醸成等を目指した生徒指導の意義と方法の理解、及び、生徒の自己実現、自己存在感を育むための生徒指導の意義と方法の理解	
	第 6 回	個別の課題を抱える個々の生徒への生徒指導の意義と方法（1）：学校教育における問題行動等の現状の理解：対応のポイント、組織的対応、法令上の対応等のための基礎的事項の理解	
	第 7 回	個別の課題を抱える個々の生徒への生徒指導の意義と方法（2）：暴力行為、不登校等の問題の理解：現状と背景、組織的対応方法について	
	第 8 回	個別の課題を抱える個々の生徒への生徒指導の意義と方法（3）：児童虐待、情報モラル等の問題の理解：現状と背景、組織的対応方法について	
	第 9 回	個別の課題を抱える個々の生徒への生徒指導の意義と方法（4）：いじめについての諸問題の理解：現状と背景、組織的対応方法について	
	第 10 回	進路指導とキャリア教育（1）：進路指導・キャリア教育の意義と目的、及び、教育課程との関連についての理解	
	第 11 回	進路指導とキャリア教育（2）：学校教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育のあり方の理解：具体的指導例を含む	

	第 12 回	進路指導とキャリア教育（3）：学校における組織的指導体制作り、及び職業に関する体験活動等を行うためのカリキュラム作りと家庭や関係諸機関との連携・協働体制作りの理解
	第 13 回	進路指導とキャリア教育（4）：進路指導・キャリア教育の方法の理解：全体へのガイダンス、個別のキャリアカウンセリング等について
	第 14 回	進路指導とキャリア教育（5）：ライフサイクルの中での進路指導・キャリア教育の意義と目的の理解：ポートフォリオ評価の活用等、具体的指導例を含む
	第 15 回	全体のまとめ
準備学習	現在の教育問題に関心を持ち、ニュース等に注目しておくこと。	
履修上の留意点等	主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に発せられる様々な問いに対して自分の言葉で考えようとする。ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書く機会を作るが、それに対しては誠実に真摯に考え、自分の言葉で文章にすること。考えることを厭わない学生の参加を望む。なお、必要に応じて、「課題授業」を行い、課題を提示するので、積極的に取り組むこと。	
成績評価の方法	50 %	試験
	50 %	レポート
		小テスト
		平常点
教科書/テキスト	特定の教科書は使用しない。	
参考書 ▶ 図書館蔵書検索	文部科学省 2010『生徒指導提要』、その他 適宜紹介する。	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	早口で聞き取りにくい、説明がわかりにくい、板書が多すぎて面倒、話がつまらない等々、多くの指摘があった。授業者の力量の問題もあるので全てを改善することは無理であるが、少しずつでも改善できるよう努める。	
関連リンク		
実務経験がある教員による授業科目		